

### 人口ビジョンの趣旨

総合戦略の策定にあたり、人口の現状について分析を行い、人口の将来展望として、目指すべき将来の方向を整理しつつ、将来人口の見通しと目標人口を設定します。対象期間は、平成72年(2060年)としています。

### 1. 人口の現状分析

#### 1-1 岩沼市の現状

##### ○総人口の推移

本市の人口は、44,200人(住民基本台帳、平成27年7月末)で、平成7年(1995年)より4万人規模で推移

年齢別人口構成比では、平成27年(2015年)7月末現在で、年少人口(15歳以下)は15.6%、生産年齢人口(16歳~64歳)は61.4%、老年人口(65歳以上)は23.0%

年齢別人口では、年少人口が昭和60年(1985年)以降、生産年齢人口が平成17年(2005年)以降、減少傾向であり、老年人口は昭和45年(1970年)以降増加傾向

##### ○世帯数の推移

本市の世帯数は、15,519世帯(平成22年)であり、年々増加、一方で、1世帯当たり人員は年々減少しており、平成22年では2.85人/世帯(全国:2.46人/世帯、宮城県:2.60人/世帯)

##### ○自然増減の推移

これまで年100~200人台規模の自然増加で推移、平成22年(2010年)以降、出生数と死亡数の差がほぼ均衡

なお、合計特殊出生率は、全国平均や宮城県平均を上回っているものの、年々低下しており、平成24年(2012年)は1.43

##### ○社会増減の推移

転入・転出数の推移をみると、平成19年(2007年)まで概ね転入超過で推移、平成20年(2008年)から平成24年(2012年)までは転出超過が続き、近年は2年連続して転入超過

##### ○東日本大震災の影響

平成23年2月末時点の44,254人と比較し、27年7月末時点では△54人

#### 1-2 将来人口の推計

##### ○将来の人口

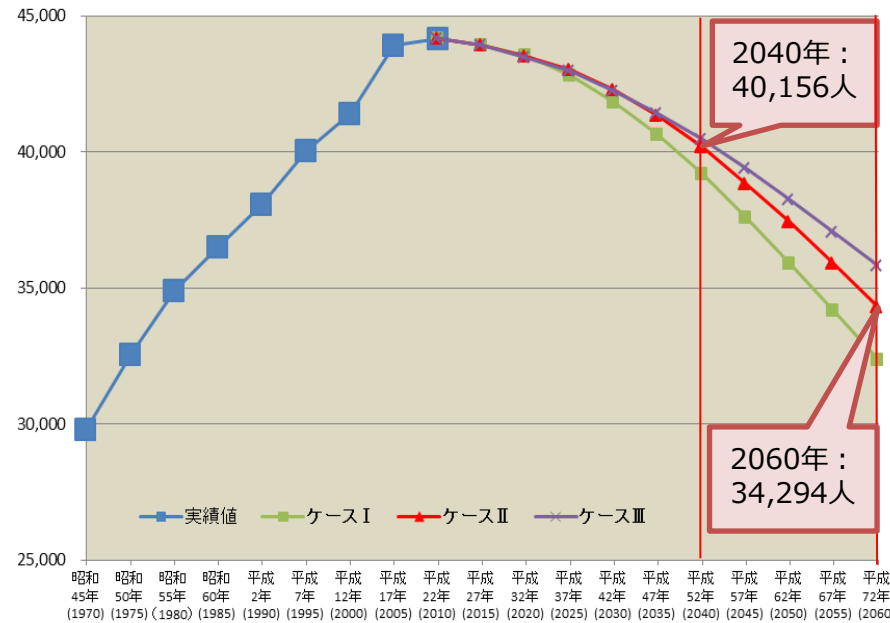
・ケースⅠ: 社会保障・人口問題研究所推計準拠

・ケースⅡ: 岩沼市独自推計

(合計特殊出生率が平成32年(2020年)以降1.50、平成42年(2030年)に1.60、平成52年(2040年)に1.65に達し、移動減少傾向がみられる20歳~40歳前半の移動が増加となった場合)

・ケースⅢ: 宮城県推計準拠

(合計特殊出生率が平成42年(2030年)に1.80、平成52年(2040年)に2.07(人口置換水準)に回復する場合)



### 2. 人口の将来展望

#### 2-1 目指すべき将来の方向

##### ○基本姿勢

##### ①地域を共に創る

将来の人口推計結果を踏まえると、今後、本市の人口が減少していくことは避けられません。しかしながら、住んでみたい、ずっと住み続けたいと感じられる「まち」を創ることで、その減少を抑えることができると考えます。

このために、市民、企業、各種団体、行政が、それぞれの役割を踏まえつつ、共に連携、協力しながら、魅力あるまち、地域、人を創り育てる取組を推進します。

##### ②岩沼で生まれ育った人が、岩沼で住み続ける環境の実現

本市の年齢別人口動態の傾向として、進学や就職等により転出超過となる年代があります。

このため、これらの人たちも含めて、岩沼で生まれ育った人が、岩沼で暮らし、子どもを産み育て、住み続けられるよう、魅力的な環境づくりに取り組むとともに、「ふるさと岩沼」に誇りと愛着を持つふるさと教育の取組を推進します。

##### ③岩沼に移り住んだ人・移り住もうとする人が、住み続けたいと感じる環境の創出

本市の人口動態の傾向として、市内や仙台市等に勤務する人たちを中心とした転入者が多いことが挙げられます。

このため、これらの人たちに対して、岩沼の魅力を伝え、いつまでも岩沼で暮らし住み続けたいと感じられるよう、適切な情報発信、魅力的な子育て・教育環境づくり、高齢者等が生きがいを持ち活躍できる地域社会づくりの取組を推進します。

#### (2) 人口減少を抑制するための将来の方向

##### ①しごとづくり

- 交通の要衝としてのアクセス環境等の良さを活かし、仙台空港を活用した産業の振興、地場製品の提供などにより、「しごとづくり」を積極的に取り組む
- また、企業や商工会等と連携して子育て世代が働きやすい環境づくりや安定した農業の経営基盤づくりに取り組む

##### ②ひとづくり

- 本市の魅力を的確かつ効果的に伝えるイメージアップを図り、新しい岩沼の担い手の育成などにより、「ひとづくり」を積極的に取り組む
- また、近隣市町との連携により地域ブランドの確立を図りつつ、「千年希望の丘」などの地域資源を活用したネットワーク(人との繋がり)により交流人口の拡大に取り組む

##### ③まちづくり

- 本市に住み続けたいと感じる「まちづくり」、移住したいと思える「まちづくり」に積極的に取り組む
- また、年少人口を確保し、活力のあるまちを目指して、結婚・出産・子育てに関するさまざまなニーズに対応した施策に取り組む

##### ④市民がつくる「まち・ひと・しごと」

- 市民が主体となり、地域と地域が連携して課題を解決し、地域の価値を高められるよう地域力の向上に取り組む
- 誰もが安全で安心して暮らすことができる防災対策や交通安全対策の強化を図る
- 市民が「ふるさと岩沼」に誇りと愛着を持つふるさと教育に取り組む
- 市民や企業等の力を活用して、地域の担い手を育む環境の整備に取り組む
- 地域の中で子どもたちが元気で健康に育つ子育て支援策の充実を図るとともに、子育て世代の仕事と生活の調和を図る

#### 2-2 将来人口の見通しと目標人口

地方創生の実現に向けた各種の取組を推進することによって、平成42年(2030年)の合計特殊出生率を1.60に近づけ、更に合計特殊出生率の向上を目指します。併せて、20代から40代前半の転出超過の抑制を図ります。

具体的な将来人口の目標は、平成52年(2040年)の「人口」に約40,100人、平成72年(2060年)の「人口」に約34,200人を目指します。なお、人口構成の目標については、今後、適宜、状況把握等を行いつつ、持続可能で自立した「まち」であり続けるための人口バランスを目指します。

# 岩沼市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)

## <概要版>

## II 総合戦略

### 1. 基本的な考え方

#### 1-1 趣旨


国は、これまで人口増加期における少子高齢化の進展に対し個別の施策を行ってきたところですが、現下の人口減少期における急激な状況変化への対策が喫緊の課題となっております。

今後、東京圏への人口の過度の集中を是正し、活力ある日本社会を維持していくため、まち・ひと・しごと創生(以下「地方創生」)が中心的な政策となってきました。

それらに関する施策を総合的かつ計画的に実施することを目的として、平成26年11月に「まち・ひと・しごと創生法」が制定・施行されました。

本市においても、「まち・ひと・しごと創生法」に基づく総合戦略を策定し、人口減少の課題に対し、魅力あふれる地方創生の実現に取り組んでいきます。

#### 1-2 総合戦略の位置付け

本市では、今後、目指す実現すべき将来都市像として「いわぬま未来構想」(計画年度：平成26年度～平成35年度)を策定しており、「があふれる“健幸”先進都市いわぬま」を掲げています。

今回の地方創生において、「いわぬま未来構想」の具現化を図るため、そのリーディングプロジェクトとして総合戦略を位置付け、平成27年度(2015年度)から平成31年度(2019年度)を計画期間として取り組むこととします。

#### 1-3 地方創生のための基本理念

「いわぬま未来構想」におけるまちづくりの指針の下に、自助、互助・共助、公助と協働・連携を基本理念として、人口ビジョンを踏まえて市民と共に時代に応じたまち・ひと・しごとづくりに取り組んでいきます。

#### 1-4 政策目標の設定と政策検証の枠組み

国の示す政策四分野ごとについて、基本目標とし、実現すべき成果に係る数値目標を設定します。

また、政策分野ごとに講ずべき施策の基本方向と具体的な施策を記載し、各施策の効果を客観的に検証できる指標(重要行政評価指標(KPI))を設定します。

実施した施策・事業の効果を検証しつつ、必要な修正等を行うことにより、PDCAサイクルを確立します。

#### 1-5 戦略のフォローアップ

今後、市民のニーズ等を把握しながら、国、宮城県の政策・総合戦略等との整合を踏まえ、当戦略の基本目標の枠組みを中心に、適宜、必要な見直しを行っていきます。

### 2. 基本目標・具体的施策

#### ※ 安定した雇用を創出し維持する ～岩沼で仕事をしよう!～

##### 【数値目標】

従業員数：16,000人(平成26年度：15,249人)

##### 【基本的方向】

地域産業の活性化を図ることにより、雇用の創出と維持に努め、働きやすい地域づくりに取り組んでいきます。

##### 【具体的な施策】

- 仙台空港等を活かした新たな産業振興
  - ・ 利便性に優れた立地環境を活かした産業の振興
  - ・ 健幸先進都市のまちづくりを産業面から支援
  - ・ 仙台空港の民営化を契機として、新たな企業誘致の推進
  - ・ 官民連携による東北各地の地場産品を販売する沿道サービス施設の整備
  - ・ 空き店舗等を活用した中心市街地の活性化
- 既存の企業や事業者の発展に向けた支援
  - ・ 地元住民との雇用のマッチングなど人材確保のための支援
  - ・ 子育て世代が働きやすい職場づくり、職住近接の環境づくりを支援
- 強い農業づくり
  - ・ 安定した農業の経営基盤づくりを推進
  - ・ 経営体の組織化、法人化を推進し農業の継続性を確保するとともに、新たな担い手を育成

#### ※ 新しいひとの流れをつくる ～魅力を伝えよう!岩沼で暮らそう!～

##### 【数値目標】

住み続けたいと思う市民の割合：80%(平成26年度：78.7%)

##### 【基本的方向】

地域の魅力を交流人口の拡大につなげ定住者の確保等を行うとともに、「住んでみたい」「いつまでも住み続けたい」と思えるまちづくりに取り組んでいきます。

##### 【具体的な施策】

- イメージアップの推進
  - ・ 市の魅力を効果的に伝えるための情報発信の強化
  - ・ ふるさと納税制度の活用やイメージキャラクターの作成
- 観光振興による交流人口の拡大
  - ・ 「千年希望の丘」を整備し復興ツーリズムの拠点として活用
  - ・ 近隣市町との連携による観光振興や物産振興
- 定住者確保に向けた取組の強化
  - ・ こども医療費助成の所得制限の緩和
  - ・ 子育て支援施策や新婚世帯・Uターン者等の定住支援策の推進

#### ※ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる ～岩沼で家族になろう!～

##### 【数値目標】

年少人口のいる世帯数：3,500世帯以上  
(平成27年4月30日時点：3,840世帯)

##### 【基本的方向】

地域の中で安心して結婚・出産・子育てができる環境を整備するとともに、特色のある教育環境の充実に取り組んでいきます。

##### 【具体的な施策】

- 結婚・出産への支援
  - ・ 結婚・出産における経済的な負担の軽減
  - ・ 年代別の異なるニーズに対するきめ細かな対応
- 地域の中での子ども・子育て支援の充実
  - ・ 地域ぐるみで子育てをサポートする取組の推進
  - ・ 誰もが安心して外出できるよう公共施設のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化を図り、子育てしやすい環境を整備
  - ・ 働く保護者を支援するため待機児童の解消や放課後児童クラブを強化
- 学校を核とした教育機会の充実
  - ・ 一人ひとりの子どもが通いたいと思う学校、保護者が通わせたいと思う学校づくりの推進
  - ・ 就学児童の放課後教育の充実など学校を核とした教育機会の充実

#### ※ 共創のまちをつくとともに、地域と地域を連携する ～岩沼でつながろう!～

##### 【数値目標】

住みよいまちだと思える市民の割合：88%(平成26年度：86.7%)

##### 【基本的方向】

住民、企業、各種団体、行政がそれぞれの役割を果たし、“共に創る”まちづくりや地域間連携に取り組んでいきます。また、高齢者や障害者等が生きがいを持ち活躍できる地域社会づくりに公益社団法人青年海外協力協会等と共に取り組んでいきます。

##### 【具体的な施策】

- 地域の担い手を育む環境整備
  - ・ 市民や企業・公益社団法人青年海外協力協会等の力を活用しつつ、地域の課題解決を目指した市民活動を支援する環境を整備
- 安全安心対策の強化
  - ・ 自主防災訓練や通学路交通安全プログラム等を通して、自然災害、防犯対策、交通安全対策等を強化
- ふるさと教育の充実
  - ・ 郷土の歴史を取り上げた地域教材の作成等、「ふるさと岩沼」への誇りと愛着を育てる教育を学校や地域と連携して推進
- 地域連携による地域力の向上
  - ・ 広域行政の推進、市と地域との協働、各町内会の連携等により地域力の向上を図り、地域課題の解決や地域の価値を高めるための取組を推進